

フィジカルインターネット実現会議 医薬品WG 2024年度活動報告

2025年6月24日



目次

1.フィジカルインターネット実現会議 医薬品WGの概要

2.これまでのWGでの検討内容

フィジカルインターネット実現会議 医薬品WGの概要

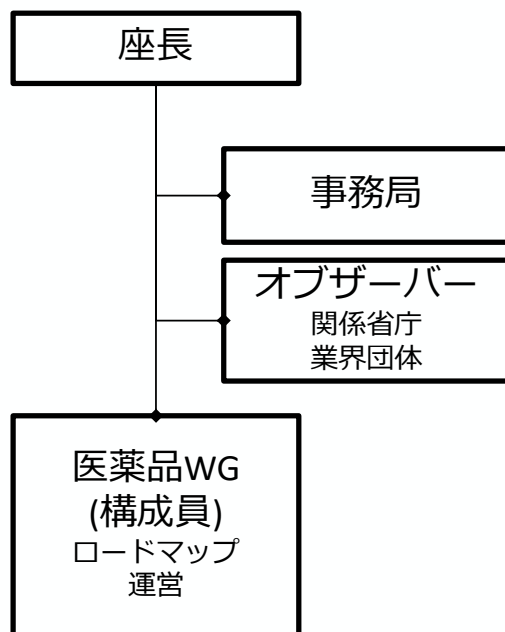
目的

- 医薬品ワーキンググループ（WG）は、フィジカルインターネット実現会議の分科会として設置
- 医薬品の国内物流の効率化の実現に向けて、商取引の標準慣習の見直し、標準化、効率化、デジタル化等の具体的なアクションプランを策定し、業界内の主要プレイヤーへ呼びかけ、実行を進めることを目的とする
- 2024年度においては、医薬品業界における現在の課題を特定・WGメンバーで相互理解した上で、フィジカルインターネット実現に向けたアクションプランを策定することを目的とする
 - 本WGのアクションプランは、フィジカルインターネット実現会議における議論をふまえて策定

取組の方針

- 物流効率性を改善し、ライフラインを支える医薬品物流を持続可能なものにするため、国が進める取組と強固に連携し、業界内の医薬品卸、医薬品メーカー、物流会社が協力し、課題解決に向けた取組を進めることを方針とする
- 各企業、業界における既存の取組と整合性を取りつつ、物流効率化に向けた標準化を進めることを方針とする

体制図



体制

座長

- ・ 早稲田大学 吉本教授

構成員

- ・ 製薬企業、倉庫業者、物流事業者 等

オブザーバー

- ・ 厚生労働省 医政局 医薬産業振興・医療情報企画課 流通指導室
- ・ 経済産業省 商務・サービスグループ 消費・流通政策課 物流企画室
- ・ 国土交通省 物流・自動車局 物流政策課
- ・ 日本製薬工業協会 流通適正化委員会
- ・ 日本ジェネリック製薬協会 流通適正化委員会
- ・ 輸液製剤協議会 物流WG
- ・ 一般社団法人 フィジカルインターネットセンター 等

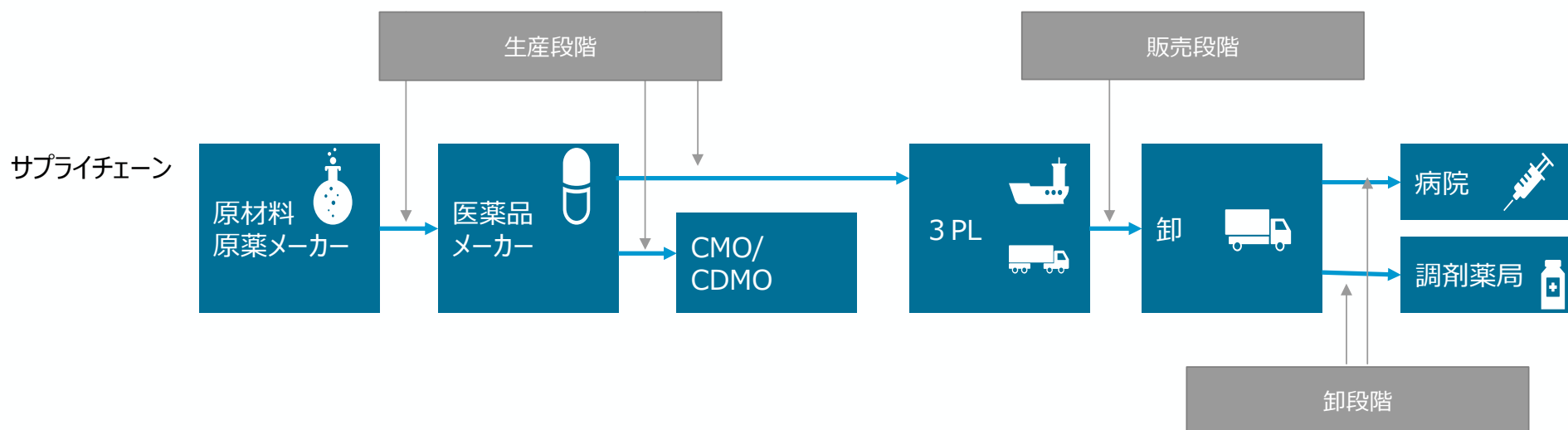
事務局

- ・ 経済産業省の委託下でボストンコンサルティンググループが運営・企画

アクションプラン策定における議論の前提

医薬品業界における以下の物流の特性に鑑み、まずは各プレイヤーにおける現状や課題について把握・分析し、全員が課題に対する共通認識を持った上でアクションプランを策定する形で議論を行った

- 薬事法、薬機法等による規制産業である
- サプライチェーンにおいてステークホルダーが多数存在する
 - 原材料・原薬メーカー/医薬品メーカー/CMO・CDMO/3PL/運送会社/医薬品卸/病院・調剤薬局





目次

1.フィジカルインターネット実現会議 医薬品WGの概要

2.これまでのWGでの検討内容

WG#1-5を通じ、取組課題の特定・今後のアクションプランの策定・ 関係省庁への提言内容及び今後の進め方に関する議論を行った

	実施時期	Goal	アジェンダ
WG#1	2024年 10月31日	生産物流・販売物流にフォーカスし、何が起因となり川下/川上でどのような課題が起きているのか、解像度高くご理解いただいた上で、取り組むべき優先課題が議論できていること	- 物流業界を取り巻く環境 - 医薬品業界における物流課題 - 販売物流 - 生産物流
WG#2 (個別討議の 形態で実施)	個別 討議実施	卸物流にフォーカスし、何が起因となり川下/川上でどのような課題が起きているのか、解像度高くご理解いただいた上で、取り組むべき優先課題が議論できていること	- 物流業界を取り巻く環境 - 医薬品業界における物流課題 - 卸物流
WG#3	2024年 12月11日	WG#1で議論した課題から本WGで取り組むべき課題を特定できていること 加えて、打ち手の方向性とアクションプランの初期議論ができていること	- 打ち手の方向性 (ドラフト) - アクションプラン (初期議論)
WG#4	2025年 1月30日	WG#2・3で議論した課題を統合できていること WG#3を踏まえ、打ち手の方向性とアクションプランの合意ができ、 省庁への提言内容が合意できていること	- 課題の統合 - 打ち手の方向性 (更新版) - アクションプラン (更新版) - 関連各所への提言内容
WG#5	2025年 3月4日	次年度に向けて、役割分担を踏まえた今後の体制・進め方の 合意ができていること	- 次年度に向けた進め方 - 今後の体制

WG#1では以下の3点につき討議した

WG1の 議論内容

討議事項

①本WGの目的と
実施する/実施しない事項

②医薬品業界が置かれている状況

③本WGで検討すべき課題

討議内容・結果

2035年を見据えた医療用医薬品業界における物流の標準化を通じた効率化と強靱化を目指し、OTC、競争領域、BCP起点の課題は本WGの対象外とすることに合意

高齢化に伴う処方箋薬需要の増加を踏まえ、持続可能な物流が不可欠である一方、国内物流は各社最適化が進む中で業界全体の最適化・標準化が停滞しているという認識に相違はない

各社のヒアリングをふまえ認識された課題は22件、そのうち販売物流に関して特に解決したい課題が9件挙がった

③パレット仕様の相違

④元梱包サイズの違いによる非効率化

⑤製品ラベルの表記・色合いの相違

⑥温度管理基準の相違

⑧月初等波動

⑪発注ロットのばらつき

⑫検品基準のばらつき

⑮配送依頼仕様の相違

⑯納品伝票仕様の違い

医薬品の国内物流の効率化の実現に関して抽出された22の課題

生産物流

- 1 ローリー検品対応
 - 長時間の検品作業やローリーでのサンプリング作業
- 2 CDMO/CMO~3PLへの各社個別配送
 - 異なるメーカーのため同じ仕向地でも別トラックで配送され、配送要件も各社で異なる
- 3 パレット仕様の相違
 - メーカーごとに仕様が異なり、回収・返送の手間が増大
- 4 元梱包サイズの違いによる非効率化
 - メーカーごとに外装規格が異なり、特にジェネリックで標準化が進まず積載効率が低下
- 5 製品ラベルの表記・色合いの相違
 - ラベルの印字項目、フォント、文字サイズが多様で、貼付位置もメーカーや薬種ごとに異なる
- 6 温度管理基準の相違
 - メーカーごとに温度設定、管理形式、ロガー設置場所が異なる
- 7 温度管理車両の手配
 - GDP対応で温度管理車両が必要となり、コストが増大
- 8 月初等波動
 - 発注は月初や薬価改定後に集中し、特に限定出荷品（ジェネリックの半数）が影響
- 9 D1/D2等厳格かつ不均一な納品ルール
 - 業界商習慣でD2納品が主流だが、D1と混在し、地域差もあるため配送計画が複雑化
- 10 納品時間指定
 - 午前中や14時までの納品指定が多く稼働が集中
- 11 発注ロットのばらつき
 - 発注ロット不定により開封・詰め合わせ対応が必要で、時間とセキュリティ対応が求められる

I S E T

I S E T

I S E T

I S E T

I S E T

I S E T

I S E T

I S E T

I S E T

I S E T

I S E T

販売物流

- 12 検品基準のばらつき
 - 外装の軽微な破損でも返品される場合があり、破損基準が統一されていない
- 13 フォークリフト等納品時荷役負担
 - 荷役作業で稼働率に影響、バラおろし時に協力する卸も増加
- 14 流通在庫の偏在
 - BCPのため在庫可視化が必要だが現状見えず、薬が患者に届かない場合がある
- 15 配送依頼仕様の相違
 - 仕向け地名や顧客名が統一されておらず、システムやオーダー確定のタイミングも異なる
- 16 納品伝票仕様の相違
 - メーカーごとの受領書管理で工数が増大し、配車計画の属人化で非効率が生じている
- 17 バース待ち
 - バース予約システムが未整備で、直前リリースにより必要な人が予約できない
- 18 頻回配送
 - 在庫スペース不足で都度発注が必要となり、医薬品卸は1日150か所を複数回配送
- 19 配送網の維持
 - 人手不足で郊外の配送網維持が難しく、過疎化で赤字リスクが増大
- 20 急配
 - 病院・調剤薬局からの頻繁な発注により、都度・当日納品が求められる
- 21 調剤薬局・病院間における在庫の偏在
 - 緊急時や季節性の突発需要で特定団体による買い占めが起こり、在庫偏在が発生
- 22 病院向け納品書仕様の相違
 - 特に公立病院向け納品書が紙ベース・各院独自フォーマットとなっており、作成・管理工数が増大

I S E T

I S E T

I S E T

I S E T

I S E T

I S E T

I S E T

I S E T

I S E T

I S E T

I S E T

IS E T = Information/データ, System = 仕組み, Equipment=輸送器具, Transportation Unit =輸送手段

生産・販売物流に関しては、ヒアリングで課題を集約し フィジカルインターネットの視点から本WGで解決すべき優先課題を決定

取組内容

アプローチ



視点の設定

- ・ フィジカルインターネットのコンセプトの観点より、取り扱うべき課題の設定

① 標準化視点

- 「もの」（荷姿・梱包・輸送形態）等の標準化
- 「プロセス」（庫内・配送時のオペレーション）等の標準化
- 「データ」（データ・システム/仕組み）等の標準化

② 商取引上の標準慣習

- 物流領域における「商取引上の標準慣習」の是正

ヒアリングをした課題の絞り込み

- ・ 本WG内で検討すべき標準化及び商取引上の標準慣習に関する課題であるかの評価と討議

② 何を優先とするか？

投資の大きさと課題解決の難度で
取り組むべき課題の優先順位付け

投資の大きさと課題解決の難度による課題の優先順位付け

- ・ 投資の大きさ、課題解決の難度による課題の優先順位付け

課題の構造化による打ち手の方向性の整理

- ・ 課題の構造化による打ち手の方向性の整理
 - 現象、課題、真因、打ち手の方向性とハードルを整理

生産・販売物流に関する優先課題として9の課題が抽出された

事象名	事象説明	標準化・標準慣習視点			
		標準化： モノ	標準化： プロセス	標準化： データ	標準 慣習
3 パレット仕様の相違 I S E T	- メーカー毎で詳細仕様が異なる - サイズは11型ではほぼ統一されているが、片面・両面、二方・四方は非統一 - メーカーごとに回収して送り返す必要があり、大きな手間が発生	✓	✗	✓	✓
4 元梱包サイズに違いによる非効率化 I S E T	- 外装規格がメーカー毎に異なり、多様なサイズが展開 - 特にジェネリックは外装形態が標準化されていないため高積みができず積載率が低下	✓	✗	✗	✗
5 製品ラベルの表記・色合いの相違 I S E T	- ラベルに印字される項目、フォント、文字サイズが多様 - コードラベルの貼付位置がメーカー薬種によって多様	✓	✗	✗	✗
6 温度管理基準の相違 I S E T	- 各メーカー基準がバラバラで、車両設定温度が相違 - それぞれ温度管理の提出形式も相違 - ロガーの設置場所指定も区々	✗	✗	✗	✗
8 月初等波動 I S E T	- 病院・調剤薬局の商取引上の標準慣習における発注サイクルが月初に集中 - 限定出荷の対象商品は月初に発注が集中（ジェネリックの半数が対象） - 薬価改定時後にも発注が集中	✗	✗	✗	✓
11 発注ロットのばらつき I S E T	- 発注ロットが決まっておらず、卸の在庫状況に応じて、開封・ピッキング・箱詰めが発生、梱包をばらす必要あり、詰め合わせをするため、時間を所要 - セキュリティの観点でも厳格な対応が必要	✗	✓	✗	✗
12 検品基準のばらつき I S E T	- 少しの外装汚破損で返品になる場合が存在 - 破損状況（梱包材の角が破損しているだけで）の基準が相違	✗	✓	✗	✗
15 配送依頼仕様の相違 I S E T	- 仕向け地名や顧客名が、メーカーによってバラバラになっており、集約に時間を所要 - 利用するシステムもメール、FAX、システムなど、3PLによって相違 - オーダーが確定するタイミングが各社で相違	✗	✓	✓	✗
16 納品伝票仕様の相違 I S E T	- 基本はメーカー毎の受領書が存在し、管理工数の増大 - 配車計画の属人化による非効率性を招いている	✗	✓	✓	✗

ISET= Information/データ, System = 仕組み, Equipment=輸送器具, Transportation Unit = 輸送手段

WG#2では医薬品卸各社と物流課題について個別討議した

生産物流・販売物流課題に関するご所感

医薬品卸の観点からも課題の認識相違はなかった

特に卸にもメリットが生じるとして挙げた課題は以下

- 標準化
 - ③パレット仕様の相違
 - ④元梱包サイズの相違
 - ⑤製品ラベル表記の相違
- 商取引上の標準慣習
 - ⑧月初等波動
- デジタル化
 - ⑮運送依頼仕様の相違
 - ⑯納品伝票仕様の相違

卸物流課題に関して声の挙げた課題

大きな課題として挙げたのは以下

- ⑮頻回配送、⑯急配
 - 医療機関の限定的な在庫スペースが課題
 - 患者さん対応のために必要な場合は勿論ある前提で、病院の在庫管理による一定の改善余地は存在する可能性
 - 改善のためには、各医療機関・調剤薬局 1 拠点ごとに働きかける必要
- ⑰配送網の維持
 - 社会インフラの維持と考えて協調する余地はある

その他、挙げたのは以下

- 物流課題：医療機関向け納品書仕様の相違
 - 病院向け納品書が紙ベースであり、各病院で仕様が異なることが非常に非効率（特に公立病院）
- その他：川下の薬の安定供給
 - 後発品の限定出荷の問題が大きく、卸側で従来以上に在庫を保有する状態が続いている
 - 安定供給が保たれる状態になることが最優先

WG#3ではアクションプラン策定のための課題の優先順位付け・打ち手に関する初期議論を行った

優先順位の考え方

- 課題解決に見込まれる業界全体での必要投資の大きさで短期/中長期に分類
 - 必要投資が小さいものは短期施策
 - 必要投資が大きいものは中長期施策
- それぞれの課題について関連するステークホルダーに応じて優先具合を設定
 - 販売物流（メーカー/3PL/運送会社/卸）までで終了する課題を優先（クイックウイン）
 - 卸物流（(同上)/医療機関・調剤薬局）まで影響する課題は第2順位
- さらに同順位の課題については個別の想定される打ち手の合意難度が高くないものを優先

	優先順位	課題
短期 施策 必要 投資小	1	5 製品ラベルの表記・色合いの相違
	1	11 発注ロットのばらつき
	2	4 元梱包サイズの違いによる非効率化
	2	6 温度管理基準の相違
	3 or 4	8 月初等波動
中長期 施策 必要 投資大	3 or 4	12 検品基準のばらつき
	1	3 パレット仕様の相違
	1	15 配送依頼仕様の相違
		16 納品伝票仕様の相違

WG#4ではアクションプランについて討議した

アクションプランの策定：実行期間の考え方

生産・販売物流課題

- 各課題について6年以内に打ち手の実行を完了させる
 - (1) 1年目：事業者間の連携によるPJの発足・方針合意
 - (2) 2年目：PJ内での統一仕様・ルール等内容の合意
 - (3) 3年目：PJ外の関係者との共有と合意
 - (4) 4-6年目：実行完了
- ただし、合意難度が高いものは(3) PJ外の関係者との共有と合意の期間を2年間とする
- 加えて、設備投資が必要なものは(4) 実行完了の期間を4-8年目（5年間）とする
- さらに、実行において各社で個別に投資が必要なものは、実行期間終了後も継続実施の可能性をアクションプラン上に記載

アクションプランの策定：検討開始時期

生産・販売物流課題

- 短期施策
 - 優先順位1:** ⑤製品ラベル、⑪発注ロット
 - 2025年度（初年度）から開始
 - 優先順位2:** ④元梱包サイズ、⑥温度管理基準
 - ④元梱包サイズは2026年度から開始
 - ただし、⑥温度管理基準は、早期に取り組むべきとのご意見をいただいたことをふまえ、2025年度から開始
 - 優先順位3:** ⑧月初等波動、⑫検品基準
 - 卸物流で業界を挙げての課題となっている川下の薬の安定供給の制度・環境整備を優先させ、完了次第、着手
 - 制度・環境整備に必要な期間を3年間と仮置き（今後、厚労省の安定供給確保のための取組及びその他の状況に応じて更新）
- 中長期施策
 - 優先順位1:** ③パレット、⑮配送依頼、⑯納品伝票
 - 短期施策と同様に2025年度（初年度）から開始

卸物流課題

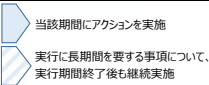
- 取組課題の検討は川下の薬の安定供給の制度・環境整備が完了次第、着手

フィジカルインターネット実現会議医薬品WG アクションプラン（1/2）

大項目	中項目	小項目	取組事項	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	2031年度	2032年度	2033年度	2034年度	2035年度	分科会
生産・販売物流に関する課題	優先課題・短期施策	水平連携	優先順位1: ⑤製品ラベルの記載内容・貼付位置の統一	・事業者間の連携によるPJの発足・方針合意	・PJ内での統一ルール合意 ・PJ外の関係者との共有と合意		・実行可能製品から随時実施 ・実行完了								分科会① (物流資材)
			優先順位1: ①②発注ロットの基準決め、統一	・事業者間の連携によるPJ発足・方針合意	・PJ内での統一ルール合意 ・PJ外の関係者との共有と合意		・実行可能企業・製品から随時実施 ・実行完了								分科会② (実務運用)
			優先順位2: ④元梱包サイズの統一規格の策定・運用		・事業者間の連携によるPJ発足・方針合意 ・PJ内での統一規格合意 ・PJ外の関係者との共有と合意				・実行可能製品から随時実施 ・実行完了						分科会① (物流資材)
			優先順位2: ⑥温度管理基準(各社温度基準・ロガーの位置)の統一 温度管理提出書類の仕様・形式の統一	・事業者間の連携によるPJ発足・方針合意	・PJ内での統一ルール合意 ・関係省庁との連携・合意 ・PJ外の関係者との共有と合意			・実行可能企業から随時実施 ・実行完了							分科会② (実務運用)
		垂直統合	優先順位3: ⑧月初等波動の改善				・事業者間の連携によるPJ発足	・PJ内での施策の合意 ・関係省庁への協力要請・合意 ・PJ外の関係者との共有と合意				・施策の導入・浸透			川下の薬の安定供給の制度・環境整備が整った段階で検討
		水平連携	優先順位3: ⑫検品基準のばらつき				・事業者間の連携によるPJ発足	・PJ内での統一ルール合意 ・関係省庁への協力要請・合意 ・PJ外の関係者との共有と合意				・新基準の導入・浸透			川下の薬の安定供給の制度・環境整備が整った段階で検討

フィジカルインターネット実現会議医薬品WG アクションプラン（2/2）

大項目	中項目	小項目	取組事項	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	2031年度	2032年度	2033年度	2034年度	2035年度	分科会
生産・販売物流に関する課題	優先課題・中長期施策		優先順位1: ③パレットの標準化・共同化	・事業者間の連携によるPJ発足・方針合意	・PJ内での標準化の合意		・合意されたパレットへの順次変更 ・標準パレット導入完了 ・レンタルパレットへの順次変更 ・レンタルパレット導入完了								分科会① (物流員材)
			優先順位1: ④配送依頼仕様のデジタル化	・事業者間の連携によるPJ発足・方針合意	・PJ内での標準配送依頼仕様及び電子化の合意		・配送依頼の電子化完了								分科会③ (デジタル)
			優先順位1: ⑥納品伝票のデジタル化	・事業者間の連携によるPJ発足・方針合意	・PJ内での標準納品伝票仕様及び電子化の合意		・納品伝票の電子化完了								
卸物流に関する課題	共通		課題の特定	川下の薬の安定供給に関する制度・環境整備が整った段階で検討											
			課題の分類・優先順位付け												
			ロードマップ・打ち手の方向性の決定												
			実行に向けた体制の決定												
			施策の実行												
共通			業界横断での検討・発信	厚生労働省とのコミュニケーション 物流課題の解決、物流効率化 に向けた普及・啓発活動											
			取組み課題・優先順位の見直し	課題の優先順位付けの見直し（必要に応じて） 取組み課題の追加（必要に応じて）											



WG#4では、9つの課題の打ち手の方向性についてブラッシュアップした

優先順位	課題	打ち手の方向性
1	5 製品ラベルの表記・色合いの相違	1. 製品ラベルの記載内容・貼付位置を統一する - まず貼付位置から統一する - 将来的には、製品ラベルをデジタル化する
1	11 発注ロットのばらつき	1. 発注ロットの基準を決め、統一する 一定規模以上の卸（例：4大卸）の発注単位を元梱にする
2	4 元梱包サイズの違いによる非効率化	1. 元梱包サイズの統一規格を策定し運用する - 対象製品を絞る/新規製造製品のみ対象とする - 個装箱のサイズを統一し、それに合わせた元梱のサイズ検討を進める 2. パレタイズした時の積載率の努力目標を設定する
2	6 温度管理基準の相違	1. 各社の温度管理基準（温度基準、ロガーの位置）、温度管理提出書類の仕様・形式を統一する 2. GDPにおける温度管理基準の解釈に関する統一見解/ガイドを厚労省に発出いただけるよう上申する
3	8 月初等波動	川下との議論により決定
3	12 検品基準のばらつき	川下との議論により決定
1	3 パレット仕様の相違	1. 標準化された統一パレットを業界内で共同利用する - メーカー倉庫～卸センター間でのパレットの共同利用から検討 - サイズは数種類、最も汎用になっているものに集約 - QRコード/RFID付パレットを標準とする（ノー検品・トレーサビリティの担保） - 各年度の目標導入割合を設定しながらパレット入替のタイミングで段階的に統一パレットを導入し、10年単位での入替を目指す
1	15 配送依頼仕様の相違	1. 配送依頼・納品伝票の様式・記載内容を統一し、デジタル化する 出荷依頼～バース予約～納品までを管理できるシステムを作る
	16 納品伝票仕様の相違	- JD-NETを活用し商流・物流データを一元化する - 医薬品等の安定供給確保に係るシステム構築と連携する

WG#4・5では、関係省庁への提言内容についても討議した

関係省庁への提言内容

【厚生労働省】

- ・ 業界全体への物流効率化に関する発信
- ・ 打ち手の実行にあたっての継続的なご協力
- ・ 薬価改定時における物流価値の適切な評価
- ・ 物流や現場の状況を理解した法令・規制の制定・改正

【経済産業省】

- ・ 打ち手の実行にあたっての継続的なご協力、公正取引委員会との連携・調整
- ・ 投資が必要な打ち手への補助・助成

【国土交通省】

- ・ 打ち手の実行にあたっての継続的なご協力
- ・ 投資が必要な打ち手への補助・助成

【経済産業省・国土交通省】

- ・ 改正物流効率化法における業界ごとの特定荷主指定基準値の変更

【厚生労働省・経済産業省・国土交通省】

- ・ 3省一体となった国としてのサポート
 - 厚生労働省：医薬品業界への発信、ルール化の支援
 - 経済産業省・国土交通省：ルール化が加速する補助・助成による支援
 - 各省庁からの実行を推進する人材の助成 など



関係省庁への提言書として
とりまとめ、厚生労働省・
経済産業省・国土交通省の
各担当者に提出

WG#5では、構成員へのヒアリング結果に基づき分科会担当を決定した

	課題	検討開始年度	分類・優先順位	分科会メンバー
分科会① (物流資材) I S E T	③パレット	2025	中長期・1	先発品 2 社、後発品 2 社、3PL 1 社
	④元梱包サイズ	2026	短期・2	
	⑤製品ラベル	2025	短期・1	
分科会② (実務運用) I S E T	⑥温度管理基準	2025	短期・2	先発品 1 社、3PL 2 社
	⑪発注ロット	2025	短期・1	
分科会③ (デジタル) I S E T	⑮配送依頼仕様	2025	中長期・1	先発品 1 社、後発品 1 社、3PL 3 社
	⑯納品伝票仕様	2025	中長期・1	

IS E T = Information/データ, System = 仕組み, Equipment=輸送器具, Transportation Unit =輸送手段

WG#5では、今後の医薬品WG全体の運営方針について討議した

医薬品WG全体の運営方針

2025年4月以降、業界主体で進めていくにあたって、医薬品WG全体の運営方針について討議した

- 1) 全体運営方針・スケジュール
- 2) 全体会議の事務局
- 3) 分科会運営
- 4) その他

事務局の必要性

構成員企業からは、全体会議の事務局が必要との意見が多く出た

- 事務局は第三者へ委託する方式が望ましい
- 事務局に果たしてほしい役割は、中立的な立場からのとりまとめ
 - 意見調整
 - プロマネ
 - 会議のコーディネート
 - 分科会同士の連携サポート
 - 分科会での検討がスタックした時のサポート
 - 医薬品WG外企業との橋渡し
- 事務局のとりまとめの下、厚労省及び関係省庁とも連携しつつ、業界団体にも入っていただきながら意見交換していくことが望ましい